

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2ユニット共通)

事業所番号	2799100066		
法人名	株式会社カムネスライフ		
事業所名	グループホームここから加島Ⅱ		
所在地	大阪市淀川区加島4丁目2番30号		
自己評価作成日	令和元年5月1日	評価結果市町村受理日	令和元年7月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪4階
訪問調査日	令和元年6月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各入居者様のニーズに対応出来るように、居室担当制としており担当が希望や思いをくみ取り可能な限り対応出来るようにしています。
 入居者様に対する敬う気持ちを持ち、ケアに対するストレスをスタッフ会議等で話し合い、日々笑顔で対応できるように努める努力を目指しています。
 地域のイベントに参加、公園掃除などで交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開所して9年余り。101歳の長寿者をはじめ平均86歳の利用者18人が、心を許せる人間関係・場所で、残された生活能力を活かしながら、生活者として共に喜び共に笑う合い、その人らしく普通に日々を過ごし続けている。比較的利用者の介護度が低く元気な2階と、就寝が早く起床の遅い1階で、職員の早出と遅出に時間差を設けることで、利用者への対応に余裕が出るようになり、職員の負担感やケアに対するストレスの軽減にも繋がっている。居室担当者によるケアプランの実施評価(1ヶ月・2ヶ月・3ヶ月毎⇒総合評価)は、職員の観察力を高め、ケア向上に大きく影響している。レクの工夫と拡充や残存能力の活性化と継続など、職員の前向きな姿勢で、利用者・家族・地域の笑顔が増えよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、EV横に提示している	「今までの暮らしが、この地域で普通に過ごせる、そんなグループホーム」を事業所理念とし、目につきやすいところに掲示している。理念に沿って、普通の暮らしを大切にされたケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議、買い物、散歩、公園掃除、保育交流等で交流深めている	地域の夏・秋の祭り、盆踊り、町内・小学校の運動会などに参加する他、近く建物からの花火鑑賞など、地域との交流を継続している。事業所内での夏祭りにご近所を交えての昼食会を催している。保育園児の来所による交流を実現したいと努力中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員を通して、認知症の理解やどなたでも相談できるよう努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括、民生委員、家族様参加され、現況や計画、事故報告など説明し出席者からの、意見交換など頂き運営に反映している	会議の開催期・回数は順当であり、複数(6~7名)の家族参加を評価する。一方、地域からの参加者が2名と少ないこと、会議内容は事業所報告が主であることについては、運営推進会議の意義を再考し、その運営と活用について工夫することが望まれる。	認知症とそのケアについての理解を広め、利用者が地域で普通に暮らすことを護り、加えて地域貢献のためにも、地域からの参加者の増員と、介護・福祉のサービスについての議案内容を工夫する努力を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者とは連絡を密にとり双方の協力関係を築けるように築けるよう取り組んでいる	公的扶助を受けている利用者について、区の担当者との連携は密である。通常の事務的連絡・連携は継続して、良好な関係を維持している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員において理解は実践している。毎月のスタッフ会議などで話し合いストレスを溜めないように早期発見に心掛けている。玄関の施錠は、安全面を最優先に考え入居者様及び家族様にも理解頂いている	身体拘束適正化のための委員会を規定通り開催し、職員の研修を実施している。職員の心身の健常(ストレスを溜めない)にも留意し、拘束と気付かない言動の防止に努めている。玄関の施錠は防犯上からも止むを得ないが、エレベーターでのユニット間の行き来は自由である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修など、施設に持ち帰り共有する。定期的に、内部研修にて重要視話し合うように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる入居者様、家族様には助言を行なっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が個別に説明し、理解納得が出来るように丁寧に説明に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等、個別に話せる機会を設けケアプランに活かしている 運営推進会議や行事の際に要望、苦情を頂けるように努めている	遠方の家族を除き、比較的面会の多い家族の来所時を有効に活かして、丁寧に意見・要望を聴取している。タバコ臭について家族から注意があり、即対応した例がある。運営推進会議後の家族会議は有効であり、在職9年のリーダーが管理者に就いたこともあり、家族とのコミュニケーションは十分に取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りで常に情報を共有に努めている。 毎月アンケート配布にてスタッフ会議で意見や提案を機会を持っている	申し送り時や月1回のスタッフ会議で職員の意見などを聞く以外に、全員へのアンケートでの意見・要望・提案を取り上げて検討し、法人による週1回の管理者会議に諮り、運営に反映させている。スタッフの意向を踏まえて、1・2階の利用者の状態に合わせてシフトを変動した成果が、ケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人的な意見や要望など常に、代表者に伝える機会を持っている 不安定材料はなるべく早く解決できるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の案内を提示して、勤務内に行けるスタッフ		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	淀川区グループホーム連絡会に参加、意見交換を行っている。 法人内でも勉強会や、情報交換を行っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、希望や思いをくみ取り不安要素の解決に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	密に連絡を取り、不安解消に努め、関係性を深めるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様の希望、能力、意思をくみ取り他のサービスも対応出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の能力を保持できるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	関係の継続や修復が出来るように、間に入り調整を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの所に行ったり、知人の訪問を受け入れ交流に努めている	利用者の入居歴の差や、ADL低下などで馴染みへの関心は希薄になりがちだが、人・場所を問わず馴染みの関係が継続されるよう、個々人に合わせて対応している。入居後に事業所内で作られた馴染みの関係が、お互い安心する笑顔にもなっているようだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の思いを優先にして、職員が間に入り積極的に交流の場を設けるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、相談や支援に応じる旨を伝えている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々のニーズが把握できるように努め、アセスメント、ケアプラン、モニタリングを行い、サービスに反映させている	利用者個々人の人生経験・生活歴や職歴なども視野に入れて、居室担当職員を中心に、日常の会話や行動からの気づきを疎かにせず、普通の暮らしへのニーズに応えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様との会話の中からの情報や ヒント その他、関係者からの情報		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ずっと車椅子で座りっぱなしになっていないか？疲れはないか？など把握している。 カンファレンスにて検討している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に家族へ希望や何か気になる点を伺うようにしている(郵送やメール、面会時に伺う)カンファレンスにて家族の意見も参考に話し合い介護計画を作成している	居室担当職員が、1・2・3ヶ月毎に介護計画の実施状況について記録したものや、家族の意向、医師の所見などを基に、3ヶ月毎に担当者会議を実施している。計画の見直しは、6ヶ月・1年毎を基本としているが、状態変化に応じて随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実行やその状況。 又、状態変化や気づきなど介護記録に記入している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望やこまっている事を伺い、その方に合った対応を心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の方、民生委員に定期的に地域の催し物など知らせて頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医・家族様・事業所と面談を実施しい棒や意向を伺い納得した医療を受けられる支援をしている	家族対応で従来のかかりつけ医を受診している利用者1名以外は、協力医師の訪問診療を受けている。訪問歯科医は希望者が受診し、他の専門科は家族対応を基本としているが、殆どの場合は事業所対応となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週2回勤務。 かかりつけ医の訪問看護など週2回来られ、相談している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者と退院調整を、退院前にカンファレンス等で状態の変化などに対して指導を頂いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医・家族様・事業所での面談を早い段階で行い家族様の希望や意向、医師からの確認を行い終末期のあり方について話し合っている。かかりつけ医からも積極的に面談の希望がある	入居時に看取り介護の内容7項目について利用者・家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態変化に応じて、その都度医師・家族・事業所で話し合い、確認の下でケアに当たっている。看取りの事前に必要な研修、事後の検証を行っている。年間で2～3名の看取りケアの実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが確認している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	偶数月にミニ災害(勉強会)を実施している 災害担当を決めスタッフ中心で行っている 消防避難訓練・点検の実施 地域の防災訓練に町会の方と参加している	規定の訓練以外に、3ヶ月に1回のミニ訓練(勉強会)で、本部策定の各種災害についてのマニュアルを基に、当事業所の諸条件(立地・構造・利用者・職員体制など)を十分に考慮した対策について、全職員に周知している。年1回の地域防災訓練に、職員と利用者の数名が参加している。災害担当者を中心に、備蓄品・防災用具の整備・点検を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束適正の算定に伴い、言葉からの制限など振り返り意識している	利用者への言動、特に言葉の慣れについては十分に注意している。トイレ介助・入浴介助については、プライバシーへの配慮を怠らず、自主点検シートでの反省を活かし、人権についての意識を高めて接遇するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	居室担当制でケアプランのモニタリング(評価表)を記載するなど、担当制とした形をとっている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日入居者全員の希望通りもペースには対応出来ていないが、可能な曜日を伝えなるべく対応出来るように心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居様が多く、お洒落に気を使われる入居様が多く、服の色季節に合った服選びなど楽しまれている様子。又、自己にてお洒落が出来ない方は職員が、いい香りのハンドクリームなどでマッサージ行ったりしている	異常	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けなどにも参加して頂き、食事の楽しみを一緒にして頂く時もある。又、手作りのおやつ、お好み焼きなど職員と一緒に行う事がある	調理専任職員が、搬入した献立表付きの食材で昼・夕食を作っている。調理師のアレンジによる調理、週1回の手作りおやつ、粉もんパーティー、ピザの取り寄せなど、普通の暮らしにある“食べる楽しみ”を工夫している。車椅子から椅子に移乗しての食事体勢は評価できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活の場では体重管理、摂取量分析などにて状態を管理(かかりつけ医の定期的な採血から参考にする場合もある)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを活かしてトイレ誘導を行っている。	利用者の排泄習慣やもよおしの仕草に留意して、トイレ誘導やパッド交換に当たり、座位・立位の身体機能を活かす方向で介助している。近年、トイレ誘導に工夫した結果、オムツ状態での入居者が、1ヶ月ほどで自立排泄に成功した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医との相談で排便コントロール行っている。水分やヨーグルトなど個々の対応腹部マッサージなど対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所で決めた曜日になっているが、体調など配慮にて固定ではなく、入居様の希望に沿っての対応心掛けている	週3回の入浴を基本としている。一人ずつ湯を替える、肩までゆっくり浸る、職員手作りの石鹸と入浴剤を使用する、おしゃべりをするなど、入浴を楽しむ工夫がある。2人介助の人、入浴以外に毎日足浴する人など、利用者個々人の状態・希望に沿った対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息の時間を設け、高齢者の状態から、昼寝が必要ならば臥床時間を作る。 馴染みの枕・布団なども家族様にも協力して頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用までは理解できていないが、体調変化など、かかりつけ医と相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活を通じて、洗濯物干す、入れる、畳む、新聞を取り込むなど、役割を設け		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員の希望に添えないが定期的に、買い物や美容室、外食、季節に合った外出など希望に添えるように努めている	花見を全員で楽しむ以外は、夫々の居室担当職員が利用者各人の希望・目的に沿い、状態に応じて計画して外出支援を行うよう努力している。家族が協力して外出する人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月々の買い物などで使用できる金額は家族様と相談して事業所管理している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日書かれている方もおられる、代理で投函している。電話を掛ける、掛かってくるなどは、対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、共有部を清潔に保つように努めている 普通の暮らしを意識している	リビング兼食堂は、程よい広さで採光も良く、壁面には利用者と職員合作の季節感のある飾りつけを配し、寛ぎスペースもゆったりして、普通の暮らしが居心地よく過ごせるよう整えられている。トイレ・浴場も清潔で整理整頓されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内を自由に過ごされている。 馴染みの入居者様同士、居室にてお茶を飲みながら談笑されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅のお部屋に近い暮らしを、家族様に協力して頂き馴染みの物・好きな色など個々に個性のある居室になっている	利用者の入居歴の差や認知症状の差によって、調度品や家族写真、往年の自作品などの持ち込みによる居室の設えの趣は違うが、夫々に普通の「私の暮らし」が窺える居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に工夫努めている、危険と想定する箇所の改善などその都度検討して対応している		